

発表者氏名： 鈴木 祐二

所属学校： 高等学校

派遣職種： 理数科教師

派遣国： タンザニア

派遣先： Tanga technical secondary school

タイトル： タンザニアの教育の現状と協力隊活動

キーワード： 教育制度 生活環境 教育環境 生物紹介

発表要旨：

アフリカ大陸東部に位置するタンザニア連合共和国は、初等教育から高等教育までの教育制度が比較的整っており、教育環境整備に力を入れてきている。教育を重視するその背景には、初代大統領ニエレレが教育者であったことが大きな影響を与えている。国民自体も教育を大切に思う気持ちが強い。

タンザニアの教育制度は、7年制の初等教育、4年間のセカンダリースクール O レベル、2年間の A レベル、そして、大学教育となっている。現在、初等教育は、全国民が無償で教育を受けられる環境となっている。そのため、小学校への進学率もここ数年は上昇傾向にある。それに伴い O レベルや A レベルまで進学する生徒も増加している。反面、生徒数の増加に学校および教室数が追いつかず、さらに、教員不足が問題化している。特に、A レベルの教員は、大学を卒業した資格が必要となるため教員数不足に拍車がかかっている。また、子供たちを取り巻く生活環境も教育に対して決して満足できるものではなく、農作業や家事のために就学できない児童生徒は多い。

私が配属された Tanga technical secondary school は、政府校で最も古い歴史を持ち、国内では、理数系の進学校に位置づけられている。生徒たちは、全国各地から集まり寮生活を営みながら勉学に励んでいる。彼らのほとんどは、大学進学や医薬関係の専門学校への進学を希望している。

私は、教職員の一員として生徒への指導、生物クラブの計画と実施、生物科教員のためのワークショップや教務データの PC 管理方法などの協力活動を行ってきた。活動を通じて教育に対する考え方の違いからくる互いの摩擦や摩擦の中から理解しあえたことなど、実際にタンザニアで高等教育の現場に携わり、タンザニア教育の現状を垣間見たことを協力隊の視線から報告する。さらに、職場復帰後の教育活動と協力隊の経験の活用事例を取り上げる。



分類学を学んでいる生徒たち。小さなノートパソコンにびっくりそして、鮮明な写真やきれいな動画に感動の生徒。パソコンを使った授業は、大変好評で生物学への理解とパソコンへの興味をかきたてることができました。